

随想

第187回

「径寸十枚 これ国宝に
あらず 一隅を照らす
これすなわち国宝なり」

古代中国で、ある国の王様が隣の国を訪れ、その国の王様に一寸もある寶石などを見せ、これがわが国の宝であると言われたのに対し、隣の王様が私の国にはそのような物は無いけれど、それぞれの立場で精一杯努力し、明るく光り輝く立派な人々がいて、何物にも代え難い貴い国の宝であると応えられたと言います。この故事に倣って、今から1200年の昔、伝教大師最澄上人が、「山家学生式」の冒頭で紹介し、天台宗の根本教義として、今日まで連綿として継承されており

ます。
自己の解脱を目的とする
小乗仏教に対し、衆生済度
を目的として、自分自身よ
り全体の幸福を求める「普

薩の心」に基づく利他的な心を基本とする教えは、偉大な乗物によって、すべてのものを救うということ、「大乘仏教」と呼ばれます。天台宗の宗祖である伝教大師は、この大乘の教えをわが国に根付かせようと比叡山延暦寺を開き、円教、密教、禅、戒律、念仏すべてを實踐する仏教総合大学とされました。

少子・高齢化の進む社会にあって、人々が育しく人間と



して生涯を全うできるように共に助け合い、分かち合い、互いに幸福を願い合える社会を作り上げることは、現代に生きるわたしたちの理想であります。1200有余年の昔、それを実践指導された伝教大師の崇高な教えに敬服するばかりであります。

さて、今から20年ほど前、文化会館の小会議室に山田無文老師の「照一隅者国宝也」の額がありましたので、これ

を一人でも多くの市民の皆さまに観賞していただくことを願って、市役所の市長公室に掲額し、来訪される市民の皆さまに広く紹介させていた

だいております。
ところで、最近の世相は、価値観が複雑多様化し、常識では考えられないような悲惨な事件事故が続発し、利己中心の風潮が強まり、小・中学校での給食費ですら、その不払いが全国的に問題となつて

一隅を照らす者は国宝なり

一燈照隅 萬燈照國

土岐市長

場本係夫

おります。真に困窮されている場合は、扶助制度がありませんが、払えるのに払わないということは、どういふことでしょうか。

権利と義務は、相関係係であり、義務を果たしてこそ、権利は擁護されるのであります。

しかし、善良な市民は圧倒的に多く、自治会、女性連合会、消防団、自警団、民生委員会、青少年育成会、商工団

体などなど、各界各層の多くの皆さまのボランティア精神で、地域社会を支えていただいておりますことは、ただただ感謝あるのみであります。

まさに、市民の皆さまが、それぞれのお立場で精一杯努力され、明るく光り輝く地域社会のために、貴重な「一隅を照らす」役割を、立派に果たしておられ、市の宝であります。

「一燈照隅 萬燈照國」と

言いますが、市民の皆さまの郷土愛の精神が重なり合って、地域は活性化されるものと存じます。

駄目だ駄目だと言っているだけでは何も生まれません。

良い所を見付け出し、それを育てるために、みんなが力を出し合つ中で何かが生まれます。

1 歩目を大切にしなければ、2 歩目はありません。
志を高く掲げ、辛抱強く努

力することこそが、未来を拓く最大の力であると存じます。

一人の力は小さくても、みんなの力を合わせれば大きな力となり、明るい社会を築くことができます。

国・県・市の連携の中で、治水・治山・砂防の推進により、安全安心は大きく前進し、高速交通体系の重要な結節機能の飛躍的な発展により、プレミアム・アウトレットや道の駅、パークソギの開設と併せて、県下でも有数の交流人口増加都市となり、近々に大企業の進出など、「新しい土岐の時代」が幕を開けようとしております。

未来への基盤は、出来上がりしました。
少子・高齢社会を克服し、持続可能性の高い成熟社会を築き上げるため、市民各位の一層のご理解ご協力を期待してやみません。

衆生済度 仏語 迷いの苦し
みから衆生(生命のあるもの)へ。特に、人間をい(う)を救つて悟りの世界へ渡し導くこと

みから衆生(生命のあるもの)へ。特に、人間をい(う)を救つて悟りの世界へ渡し導くこと